

令和5年度 学校経営の概要

1 学校経営の基盤

大内小学校は、平成28年4月、上川大内小学校と下川大内小学校の2校が統合し、新しい学校として開校した。開校8年目の今年も、コミュニティースクールの学校として、地域の願いや期待を受け止め、地域の多様な文化に積極的に関わることで優れた教育環境をさらに創り上げていく。ふるさとに誇りをもち、主体的に行動できる子どもの育成を目指し、地域とともにある学校づくりを進める。

(1) 地域の概要

校舎は、旧大内町の中心地であるJR羽越線羽後岩谷駅より北西に約10kmの地点に位置し、校舎脇を国道105号線が走っている。旧大内中学校の校舎を1年かけて改修した校舎である。

学区は、芋川沿いに広がる農村地帯で、芋川上流の上川大内地区と中流の下川大内地区の二つから成り、広範囲にわたる。北は秋田市雄和方面、東は大仙市南外地区、南はへ横手市大森地区に接する地域に集落が散在している。また、豊かな自然環境に恵まれ、県指定天然記念物の植物や市指定無形民俗文化財の梵天や番楽などの伝統文化が残っている自然と文化の宝庫でもある地域である。

住民のほとんどが兼業農家で、三世代家族の形態をなしている。祖父母が農業に従事し、父母が会社員や諸官庁等に勤めている家族が多い。地域には、素朴な人情が息づいており、PTA活動や諸行事・奉仕活動へも協力的である。保護者をはじめ、地域の人々は学校教育に寄せる関心も高く、地域全体で子どもたちを見守っていこうという気風がある。また、地域に対する所属意識も大切にしている。

(2) 児童の実態

本校児童は、男子50名、女子45名、合計95名である。登下校は、一部は集団登校だが、学区が広範囲であるためと安全に通学できるよう、スクールバスの送迎車両が6台運行され、約8割の児童が利用している。スクールバスは中学校との混乗の路線もあるため待ち時間が長く、放課後に児童が安全に学校で過ごせるように「放課後子ども教室」（キッピー大内小学校教室）を開設している。

児童は、明るく素直で基本的な生活習慣は概ね身に付いている。上級生は下級生の面倒をよくみており、学年に関係なく親しい間柄である。また、物事への取組も意欲的で、誰にでも気持ちのよいあいさつができる。学習面においては、「学びをつなぐ」をキーワードに研究を積み重ねてきたことで、学びを学習や生活の中で生かそうとする意識が向上してきている。また、学力に関する諸調査では概ね安定した力を発揮しているが、個人差があり、「情報を整理・分析し得たことから自分の思いや考えをもちそれを表現すること」が課題としてあげられる。

2 経営の基本方針

児童一人一人の主体性を引き出し、意欲を高めていくことを学校経営の柱にし、「4甲斐～学びがい・居がい・やりがい・いきがい～」をキーワードにして学校経営を進めていく。

(1) 子どもの主体性を引き出し意欲を高める

- ・児童一人一人が「学びがい」を感じ、主体的に生き生きと授業を楽しむ姿を求めて、分かる授業づくりに取り組んでいく（学力の保障）。
- ・安心して学校生活を送り、友だちや教師との関わりの中で、笑顔溢れる表情で過ごすことができる「居がい」のある学校・学級づくりに努める。
- ・児童一人一人が、友達や教師との関わりの中で達成感や成就感をもち、満足した表情で学校生活を送ることのできる「やりがい」のある諸行事・諸活動を組み、成長の保障に繋がるように目的を明確にし、計画・実践していく

(2) 共に学び合い、高め合う教職員集団を目指す

- ・「チーム大内小」として、教職員一人一人の研修意欲と同僚性を高めながら、主体的・協働的に学び合い、共に高め合い自らの資質向上を目指す。
- ・4甲斐を通じた実践の積み重ねによって校章のコンセプトである「和と向上」を具現化し、児童の成長を「いきがい」として日々の実践を大切にする教師集団を創り上げる。
- ・1年間をIV期に分け、経営の重点を明確にして評価、改善に努め、次期の経営に生かしていく。

(3) 人との関わりや交流を図り、家庭・地域と連携して子どもを伸ばす

- ・児童、教師、保護者、地域の人々の相互の関係をより確かなものにし、人との関わりや交流を大切にする教育活動を通して、人と関わりながらよりよく生きていこうとする社会性を培っていく。

3 学校教育目標と目指す姿

(1) 学校教育目標

自ら考え 判断し ^{あした}明日を創る子どもの育成

(2) 目指す子ども像

よく学び よく遊び 瞳輝く子ども

- 「なぜ」「どうして」「どのように」を考え、学び続ける子ども（知）
- 友だちを大切にし、共に関わり、高め合い、仲良くできる子ども（徳）
- 心と体をきたえ、粘り強く、一生懸命がんばる子ども（体）

(3) 目指す学校像

■ 4 甲斐のある学校～学びがい・居がい・やりがい・いきがい

- 子どもの学びと成長を保障する学校(学びがいのある学習)
- 子どもが安全に安心して過ごせる人に優しい学校(居がいのある学校・学級)
- 全校体制で子どもの成長に資する組織力の高い学校(やりがいのある行事・活動)
- 家庭・地域・学校がお互いに協力して創り上げる開かれた学校(いきがいにつなぐ学校)

(4) 目指す教師像

■子どもの「やる気スイッチ」を入れることができる教師

- 子どもを愛し、子どもに寄り添う教師
- 子どもの思いや願いを大切にし、意欲を高める教師
- 研修に励み、高い専門性と人間性を追求する教師
- 子ども・保護者・地域に信頼される情熱ある教師

4 経営の重点と具体的施策

(1) 学び合う集団づくり（学級づくりを基盤にして）

- ①主体的・対話的で深い学びの実現につながる授業づくり
 - ・知的好奇心を高める導入や指導方法の工夫
 - ・ICTの効果的な活用と個の学習状況の見取り
- ②主体的に学び、自分の考えを積極的に発言する態度の育成
 - ・生活や社会につながる意識的な「学び」の推進と授業改善（研究の重点）
- ③温かな人間関係や支え合う集団づくり
 - ・学級における一人一人の「居場所」作り
 - ・「自己肯定感」「自己有用感」を得られる機会
- ④基礎・基本の定着とそれを活用する能力の育成
 - ・朝活動やパワーアップ学習の効果的な運用と全校チャレンジテストへの取組

(2) たくましい心身を育む教育の充実

- ①健康な体をつくる生活習慣の確立と食育指導
- ②運動への関心・意欲・態度の育成と体力向上施策
- ③自他の生命を守る安全意識・危機管理能力の育成
- ④チャレンジする気持ちや目標に向かって頑張る気持ちの育成

(3) 豊かな心を育む教育の充実

- ①基本的な生活習慣の確立、あいさつ・返事の励行
- ②道徳的実践力を高める各教科・各領域の効果的な指導
 - ・重点価値項目の設定と指導方法の工夫
 - ※重点価値項目（善悪の判断 自律 自由と責任）（親切・思いやり）（生命尊重）
- ③自主性や社会性を育てる価値ある体験活動の充実
 - ・学団部で協力し、協働による行事運営
 - ・育てたい資質・能力に照らした体験活動の設定
- ④自尊感情や自己有用感を育て意欲をもたせる場づくり
 - ・縦割り活動の年間計画を必要に応じた見直しと目標に添った活動

(4) 地域に開かれた学校づくりの推進

- ①地域諸団体との連携の充実・発展
- ②地域への貢献、町内施設等への学校報の配布、行事への参加等を通じた開かれた学校づくり
- ③地域行事の参加、ふるさと学習の推進
- ④学校運営協議会、地域学校協働活動等を活用した地域住民の学校運営参画の推進